

# 岩手町が生んだ黄金トリオが日本初のアジア大会金メダルに貢献

## Eight Olympians Project Vol.11

[エイト・オリンピックス・プロジェクト]

### TOKYO2020へ、そしてその先に

Presented by 盛岡広域スポーツコミッション  
[盛岡市 八幡平市 滝沢市 雫石町 葛巻町 岩手町 紫波町 矢巾町]

撮影◎山崎耕平(川村スタジオ)  
取材文◎盛岡広域スポーツコミッション  
イラスト◎木村有梨(盛岡市地域おこし協力隊員)

男女ともすでに開催国枠による東京オリンピック出場が決定しているホッケー競技。昨年8月のアジア大会で大活躍したのが男子の田中海渡、女子の及川菜、瀬川真帆の岩手町出身トリオだ。岩手町といえば「玄関を開ければ、どの家にもホッケーのスティックがある」といわれるホッケーの「聖地」。そんな岩手町出身の3人にTOKYO2020にける思いを語ってもらった。



**PROFILE**  
田中海渡(たなか かいと)◎1995年11月1日生まれ(23歳)。一方井小・中学校から天理高校、天理大学と進み、現在岩手クラブ所属。  
●主な成績／  
2018年オマーン3カ国大会優勝  
2018年第18回アジア競技大会優勝

一步のところでリオ五輪代表入りを逃した瀬川選手にとって、2018年アジア大会はリベンジマッチであり、そこで存在感を見せたことは、TOKYO2020に向けた反撃ののりでもあった。  
「高校まではホッケーが楽しくてしやうがありませんでした。今は練習も厳しいし大変なこともあります。昔からの友人や家族、地元の皆さんからの応援で頑張っています」と語る。短期間ながらスペインでプレーした経験を持つ。「子どもの頃から

海外に興味があつて、親にお願いして英語学習のキャンプに参加させてもらったこともありました。チャンスがあればぜひまた海外でもプレーしたいです」と目を輝かせた。  
TOKYO2020で初の表彰台を狙うさくらジャパンにとって、瀬川選手はなくてはならない存在。高いレベルで戦い続けるトップアスリートには、けがや故障のリスクはつきものだが、彼女ならどんな逆境も乗り越え、素晴らしいパフォーマンスを

得意の3Dドリブルで相手守備陣を切り裂く  
瀬川真帆選手のポジションはMF。  
沼宮内高校時代から抜群のスピードと戦術理解能力は折り紙つきだったが、社会人になって新たに「3Dドリブル」と呼ばれる高度な技を身につけた。3Dドリブルとは、相手から奪われにくくするため、球を浮かせながらドリブルする技術だ。

実力と人気を兼ね備え、テレビ出演するなどさくらジャパン(ホッケー女子日本代表の愛称)の中で最も注目されている選手の一人だが、浮ついた雰囲気は微塵もない。「アジア大会前には100%のコンディションではありませんでしたが、優勝できてほっとしています。TOKYO2020までこのチームで成長を続けたいと思っています」と力強く語ってくれた。  
瀬川選手は、もともとインターハイ優勝を花道に、高校限りでホッケーをやめると



## 瀬川真帆 (ソニーHC)

**PROFILE**  
瀬川真帆(せがわ まほ)◎1996年6月23日生まれ(22歳)。川口小・中学校から沼宮内高校を経てソニーHCに所属。  
●主な成績／  
2014年山梨インターハイ優勝  
2018年全日本女子選手権優勝  
2018年第18回アジア競技大会優勝

決めていた。しかし、彼女が「特別の存在」としてリスペクトする沼宮内高の恩師佐々木正人先生の「俺のために東京オリンピックに出てくれ」の一言で翻意し、ホッケーを続けることを決意したというエピソードがある。20年以上にわたり名門沼宮内高を指導した佐々木先生にとっても、瀬川選手の才能は特別のものであったらしい。  
2015年、社会人チームの強豪ソニーHCに進み、その年の12月には最年少で日本代表の合宿に招集された。結果的にあと

見せてくれるに違いない。  
最後に、将来の目標を聞いた。「スポーツを通じて人生の楽しさを子どもたちに伝えていければ、と思っています。地元ホッケー教室で小学生を指導することがあるんですが、めちゃ楽しいです」と明るく答えてくれた。  
ハードワークが、僕のストロングポイント  
1学年後輩の瀬川選手から「中学時代の田中海渡先輩をはっきり覚えてます。常に冷静で、中盤をしっかりコントロールするプレーは私たちの憧れでした」と褒められ、頬を赤らめた。今どき珍しいシャイな好青年だ。「男子の日本代表は、アジア大会前に強豪のドイツ、ニュージーランドとテストマッチを行い、納得できる結果を残せたことで自信をつかんだような気がします」と当時のチームの様子を振り返った。  
田中選手のポジションは瀬川選手と同じMF。ストロングポイントは「ハードワークです」と照れくさそうに答える。「運動量では誰にも負けないという自信もありますし、状況に応じて(自分のポジションを)上がるときに上がり、下がるときに下がる、という基本に忠実なプレーをいつも心がけています」  
田中選手のホッケーに向き合う姿勢は一貫している。より厳しい環境に身を置き、スティックなまでに己を磨き続けるというものだ。一方井中学校を卒業すると同時に故郷を離れ、憧れの先輩を追うように関西の強豪天理高校に進学する。先輩が道を拓



Eight Olympians Project  
TOKYO2020へ、そしてその先に

# 及川葉

(HC Oranje-Rood)



## PROFILE

及川葉(おいかわ・しほり) ●1989年3月12日生まれ(29歳)。沼宮内小・中学校から不来方高校、天理大学、ソニーHCを経て、プロ宣言しオランダ1部リーグのHC Oranje-roodに所属。通算3シーズン目を迎える。

●主な成績 / 2017年全日本女子選手権優勝 2018年第18回アジア競技大会優勝

いてくれているとはいえず、15歳の少年にとつてよほどの覚悟と自信がなければ決断ではない。それでも「先輩を見ていたので、何の不安もありませんでした」と気負いなく答えてくれた。

田中選手は現在、岩手クラブに所属しながらスペイン1部リーグでプレーしている。「もともと、できるだけ早い時期に海外でプレーしたいと思っていました。国内の有力チームに所属すると制約が多いので、いつでも日本を離れることができるよう岩手県ホッケー協会のご配慮をいただきました。とても感謝しています」

また、スペインに行く前には「僕のホッケー人生のお手本です」という及川葉選手から、海外でプレーするための心構えをしっかりとらたき込まれている。さらなる高みを目指す田中選手の思いを、チーム、岩手、がしっかりとサポートしてくれているのだ。

実は、2012年ロンドン五輪代表の田中泉樹選手(コカ・コラウエスト)は田中選手の実姉で、TOKYO2020では姉弟そろっての代表を目指すことになる。

実現すれば、岩手県にとっては2018平昌五輪のスキージャンプ小林潤志郎、陸侑兄弟に続く快挙だ。

「将来は指導者として岩手に貢献できれば」と語ってくれた田中選手。15歳で故郷を離れた少年には岩手町のDNAがしっかりと受け継がれていた。

## 世界一のDFになるために オランダへ

ホッケーに対する情熱は誰にも負けないと自負する及川選手だが、2016年リオ五輪最終選考での落選はかなりこたえたと言う。「ショックでとても日本にいられる心境ではありませんでしたが、既にオランダ行きが決まっていたことが救いでしたね。すぐに新しい目標に切り替えました」

及川選手にとっての新しい目標とは、世界ランク第1位のオランダで腕を磨き、世界一のディフェンダーになることだった。「瞬時に戦況を判断し、守りの態勢から(状況に応じた)攻めの形に切り替えるところまでが本当のディフェンスなんです」と説明してくれた。続けて「今年(女子

「アジア大会前のワールドカップでベルギーに敗れ、チームの雰囲気は一度落ち込んだんですが、それを引きずらずにメインドセットして大会に臨めたのが勝因でした」と及川葉選手は当時を振り返る。母親が岩手のホッケー界では知る人ぞ知る名指導者だった及川選手は、幼い頃から当然のようにホッケーのスティックを握り、沼宮内中学校から不来方高校、天理大学を経て、強豪ソニーHCの中心選手として活躍する。

「アジア大会前のワールドカップでベルギーに敗れ、チームの雰囲気は一度落ち込んだんですが、それを引きずらずにメインドセットして大会に臨めたのが勝因でした」と及川葉選手は当時を振り返る。母親が岩手のホッケー界では知る人ぞ知る名指導者だった及川選手は、幼い頃から当然のようにホッケーのスティックを握り、沼宮内中学校から不来方高校、天理大学を経て、強豪ソニーHCの中心選手として活躍する。

にとつて)大きな国際大会がないので、個々の力を伸ばす年だと思っています。日本代表がTOKYO2020で輝けるかどうかは、今年どれだけ「個」の力を伸ばせるかに懸かっていると思います」とも語った。最後に及川選手のライバルについて尋ねると、にっこり笑ってこう答えてくれた。「ライバルは自分です」

日本代表の歴史を紐解けば、男子は1968年メキシコ以来半世紀にわたってオリンピック出場から遠ざかり、女子も2004年アテネから2016年リオまで4大会連続でオリンピック出場を果たしているものの、アテネの8位が最高で、メダ

転機が訪れたのは、4年程前にオランダで開催された「ドラッグフリック」講習会への参加だった。ドラッグフリックとは、セットプレーのときに、スティックをブッシュしながら球を浮かせてゴールを狙う技術のこと。

このとき、及川選手に興味を持った世界ランク第1位のオランダ1部リーグHC Oranje-roodからオフアーを受け、ソニーHCに籍を置きながら2年間オランダでプレーした。さらにオランダから

ルはおろかベスト4にすら入ったことがない。一方で、アジア大会の優勝をきっかけに、特にさくらジャパンに対するTOKYO2020でのメダルの期待は日ごとに高まっている。

豊富な海外経験に裏づけされた世界基準の技でさくらジャパンをけん引する及川選手には、つい女子サッカーワールドカップで日本代表を優勝に導いたあの澤穂希選手を重ねたくなる。及川選手には、ぜひさくらジャパンの「澤穂希」として、TOKYO2020で悲願のメダル獲得を果たしてくれることを心から期待したい。

今回紹介した3選手や田中泉樹選手以外

3年目のオフアーを受けた及川選手は、迷いなくソニーHCを退団し、日本女子初となるプロホッケー選手の道を選ぶ。まさに、日本女子ホッケー界のバイオニアだ。オランダ行きについて誰かに相談したか尋ねると「基本、何でも自分で決めます。両親とは「オランダに行くから」「おお、そうか」というやりとりだけでした」と笑った。取材中にたびたび飛び出す「ホッケーが大好き」というフレーズが家族の共通語になっているのだから。

にも、男子の田村陸選手(山梨学院大1年)など岩手町出身の精鋭たちが虎視眈々とTOKYO2020代表の座を狙っている。まさに「玄関を開ければ、どの家にもホッケーのスティックがある」岩手町ならではの層の厚さだ。

今年1月、アジア大会の優勝報告のために岩手町役場を訪れた3選手に、佐々木光司町長はこう言葉をかけた。「皆さんは岩手町、そして岩手県の誇りです。東京オリンピックでは、より大きな夢を私たちに届けてくれると信じています」

2020年が今から待ち遠しい。

## Legend Interview

# レジェンド 小沢みさきさんに聞く



——オリンピック選手を目指そうと思ったのはいつ頃だったでしょうか。

小沢 ●本気で日本代表を意識するようになったのは大学の頃です。私は4人きょうだいの長女で、高校を卒業したら就職しようと思っていましたが、親友の強い誘いと富士大学の西田(範次)先生からのお声掛けがあって、ホッケーを続けることができました。

——2008年北京五輪の後、2012年ロンドンには残念ながら選考に漏れてしまいました。

小沢 ●正直、とても悔しい思いをしました。アスリートなら誰でもそういう経験があると思うんですが、当時の私はなかなかその事実を受け入れることができませんでした。落選後も遠征に連れて行ってもらえない夢に何度もうなされたんですよ(笑)。でも今では、自分を成長させてくれた貴重な経験として振り返ることができるようになりました。

——2016希望郷いわて国体の経験も大きかったのでは?

小沢 ●そのとおりです。岩手国体の開催決定は、大好きなホッケーと自分がこれからどう向き合っていくか迷っていた時期だったので、とてもタイムリーでした。よく皆さんから「国体、大変だったね」と言われますが、面倒なことはすべて親友がやってくれたので、自分は楽しかった思い出しかありません。私は今、東北銀行の沼宮内支店に勤務していますが、私を知っていてくれるお客様もいらっちゃって、仕事の面でとても得してます(笑)。

——昨年のアジア大会で活躍した後輩たちに激励のメッセージをお願いします。

小沢 ●2012年のロンドン五輪を目指していた頃の私は、うまく自分を主張できずに苦しんだ部分がありました。その点彼女らの場合、技術面はもちろんですが、自分を主張することがとても上手だなと感じます。ハイレベルの競争を勝ち抜くためには絶対必要な資質です。けがに注意しながら今の努力を重ねていってくれば、TOKYO 2020の代表に選ばれるのは間違いないと思います。TOKYO 2020。私がもう少し若かったらぜひチャレンジしたかったですね。

\*

つらかった頃の話をするときにも笑顔が絶やさない。しかも、常に自然体で気負いが無い素敵なレジェンドだった。

お話の中で、たびたび山崎幸子さんという親友の名前が登場した。

小学校から大学までずっとチームメイトで、希望郷いわて国体でもみさきさんと両輪で岩手チームをけん引したという。やはり、頂点を極めるアスリートには必ず良きライバル、良き友がいる。



小沢みさき(おざわ・みさき) ●1985年岩手町生まれ。東部中学校、沼宮内高校、富士大学(大学院)。2008年北京五輪代表。二巡目国体開催決定を機に2013年に帰郷。2016希望郷いわて国体では岩手県選手団女子主将を務め、皇后杯第2位に輝く。現姓は早野。

憧れの人。小学生のときにももらったみさきさんのサインボールは、今でも私の宝物です

「目指すべき人」であり、「超えなければならぬ人」です



瀬川真帆

いわて沼宮内駅前の石像のモデルは小沢みさきさんですね



田中海渡



及川葉